

追検査

受検番号	第	番
------	---	---

令和 6 年度学力検査問題

数 学〔学校選択問題〕 (10時35分～11時25分)  
(50分間)

注 意

1 解答用紙について

- (1) 解答用紙は1枚で、問題用紙にはさんであります。
- (2) 係の先生の指示に従って、所定の欄2か所に受検番号を書きなさい。
- (3) 答えはすべて解答用紙のきめられたところに、はっきりと書きなさい。
- (4) 解答用紙は切りはなしてはいけません。
- (5) 解答用紙の※印は集計のためのもので、解答には関係ありません。

2 問題用紙について

- (1) 表紙の所定の欄に受検番号を書きなさい。
- (2) 問題は全部で5問あり、表紙を除いて10ページです。
- (3) 問題用紙の余白を利用して、計算したり、図をかいたりしてもかまいません。

3 解答について

- (1) 答えに根号を含む場合は、根号をつけたままで答えなさい。
  - (2) 答えに円周率を含む場合は、 $\pi$ を用いて答えなさい。
- 印刷のはっきりしないところは、手をあげて係の先生に聞きなさい。

1 次の各問に答えなさい。(45点)

(1)  $4xy^2 \times (-\frac{1}{4}x^2y) \div (-\frac{1}{2}xy)$  を計算しなさい。(4点)

(2)  $a + \frac{3}{a} = 4$  のとき、 $a^2 + \frac{9}{a^2}$  の値を求めなさい。(4点)

(3)  $xy - y - 2x + 2$  を因数分解しなさい。(4点)

(4) 1から6までの目が出る1つのさいころを投げるとき、1の目が出る確率は $\frac{1}{6}$ です。この確率の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ただし、さいころはどの目が出ることも同様に確からしいものとします。(4点)

ア さいころを6回投げるとき、そのうち1回はかならず1の目が出る。

イ さいころを6回投げるとき、1回しか1の目は出ない。

ウ さいころを3000回投げるとき、500回ぐらい1の目が出る。

エ さいころを3000回投げるとき、少なくとも500回は1の目が出る。

(5) 図1のような、相似な円錐の容器A, Bがあります。容器Aは水で満たされていますが、容器Bは何も入っていません。図2のように、容器Aの水を容器Bにすべて入れる操作を1回行ったとき、容器Bの半分の深さまで水が入りました。容器Bを水で満たすためには、この操作をあと何回くり返せばよいか求めなさい。

ただし、容器の厚さは考えないものとします。(4点)

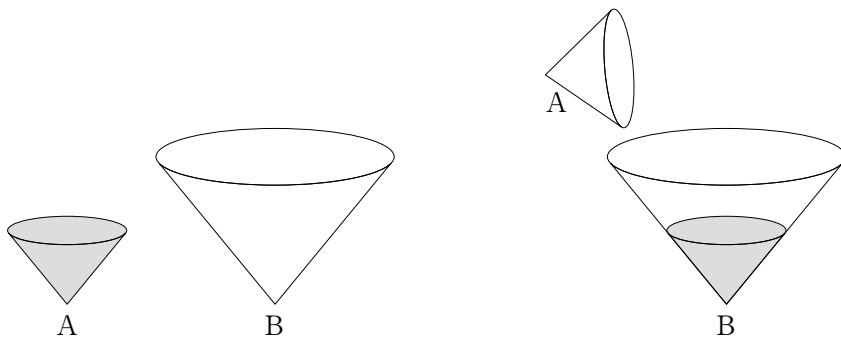
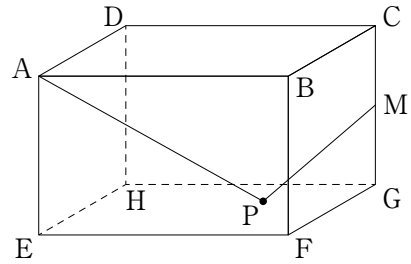


図1

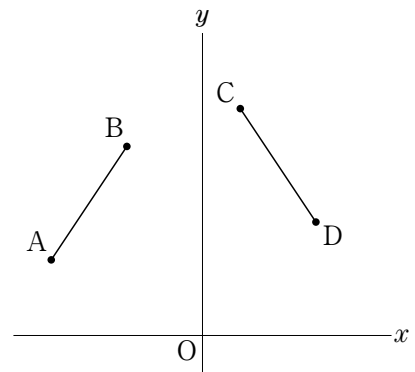
図2

- (6) 1けたの自然数  $a, b$  について,  $a < b$  のとき,  $\sqrt{6ab}$  が自然数になるような  $a, b$  の組は, 全部で何組あるか求めなさい。(5点)

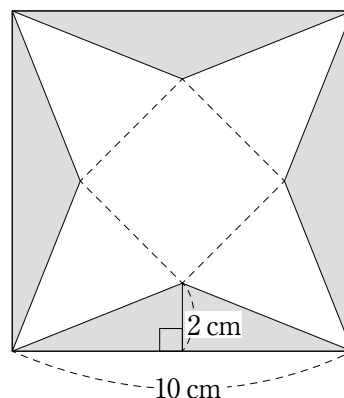
- (7) 右の図のように,  $AB = 5\text{ cm}$ ,  $AD = 3\text{ cm}$ ,  $AE = 4\text{ cm}$  の直方体があり, 辺  $CG$  の中点を  $M$ , 底面  $EFGH$  上の点を  $P$  とします。  $AP + PM$  の長さが最も短くなるとき,  $AP + PM$  の長さを求めなさい。(5点)



- (8) 右の図のように, 4点  $A(-4, 2)$ ,  $B(-2, 5)$ ,  $C(1, 6)$ ,  $D(3, 3)$  があります。関数  $y = ax^2$  のグラフが線分  $AB$  上の点と, 線分  $CD$  上の点の両方を通るとき,  $a$  の値の範囲を, 不等号を使って表しなさい。(5点)



- (9) 右の図のように、1辺が10 cmの正方形から、底辺が10 cm、高さが2 cmの二等辺三角形を4つ取り除き、残った部分を組み立てたときにできる正四角錐の体積を求めなさい。(5点)



- (10) 次の文章を読んで、下の問に答えなさい。

紙飛行機を1回飛ばし、その飛行距離を競う大会が行われます。Tさんは、この大会に向けて、折り方が異なる2つの紙飛行機A、Bをつくり、飛行距離を調べる実験をそれぞれ30回ずつ行いました。実験の結果をヒストグラムに表すと、図1、2のようになり、飛行距離の平均値は、A、Bともに同じでした。

このヒストグラムでは、例えば、図1において、Aの飛行距離が6 m以上7 m未満の飛行回数は3回であることを表しています。

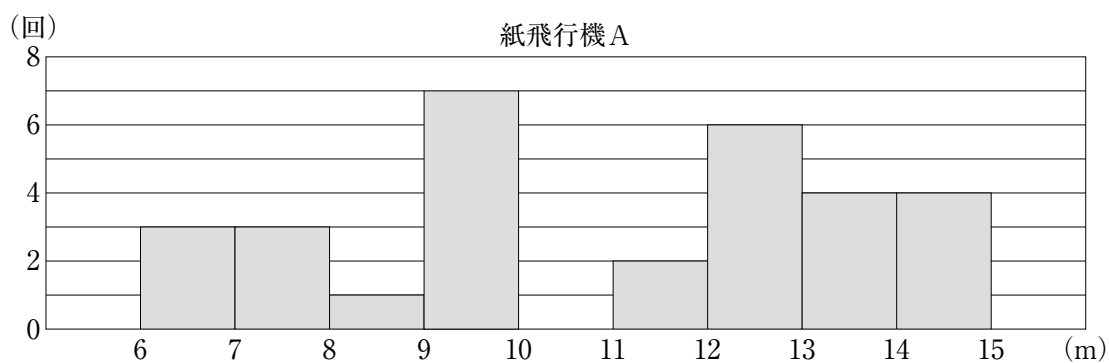


図1

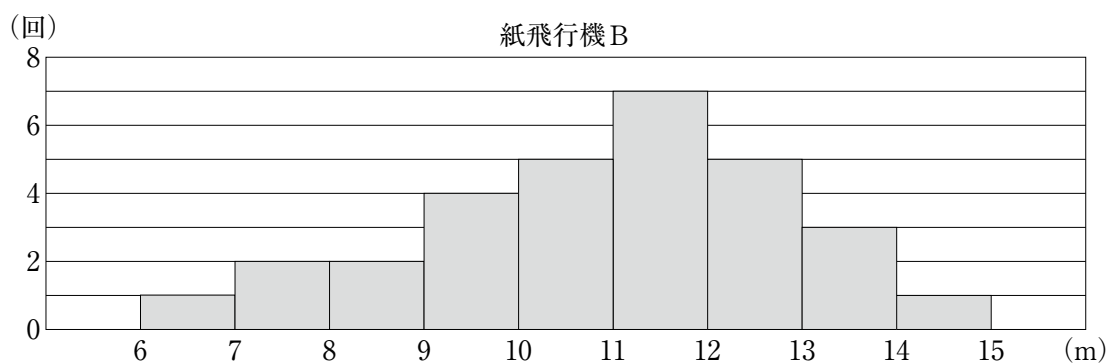


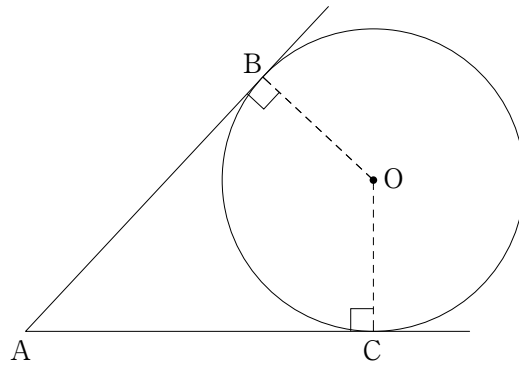
図2

- 問 Tさんは、この大会で優勝を目指すために紙飛行機Aを選びました。Aを選ぶ理由を、図1、図2の特徴を比較して説明しなさい。(5点)

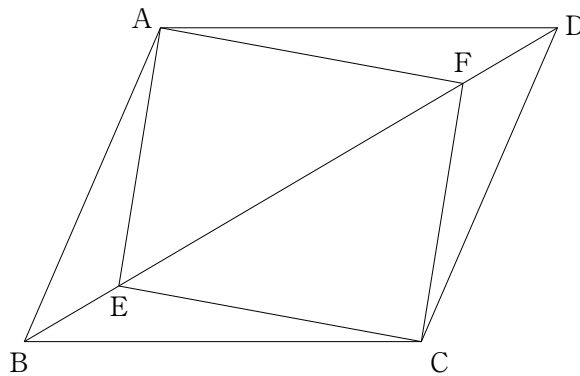
2 次の各問に答えなさい。(12点)

- (1) 下の図のように、円Oが半直線AB, ACと点B, 点Cで接しています。このとき、円O, 半直線AB, ACのすべてに接し、半径がOBより小さい円の中心Pをコンパスと定規を使って作図しなさい。

ただし、作図するためにかいた線は、消さないでおきなさい。(6点)



- (2) 下の図のように、平行四辺形ABCDの対角線BD上に、 $BE = DF$ となる2点E, Fをとるとき、四角形AECFは平行四辺形であることを証明しなさい。(6点)

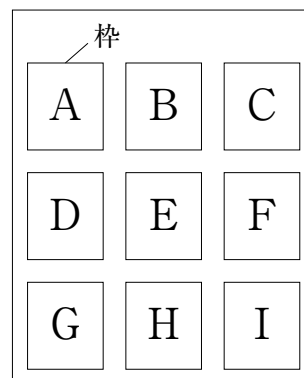


- 3 次は、ある数学の【問題】について、先生とRさん、Sさんが会話している場面です。これを読んで、あとの各問に答えなさい。(13点)

先生「次の【問題】について、考えてみましょう。」

【問題】

右の図のような、 $\boxed{A}$ ~ $\boxed{I}$ の9つの枠があり、この枠に1から9までの整数を1つずつ入れます。縦、横、斜めのそれぞれの和が、いずれも15になるように、すべての枠に整数を入れなさい。



Rさん「 $\boxed{A}$ に入る整数は、縦の $\boxed{A}+\boxed{D}+\boxed{G}$ 、横の $\boxed{A}+\boxed{B}+\boxed{C}$ 、斜めの $\boxed{A}+\boxed{E}+\boxed{I}$ の3つの式にふくまれていることがわかるね。同様に、 $\boxed{B}$ は縦と横の2つの式にふくまれているね。」

Sさん「枠によってふくまれる式の数が違うから、そこから考えてみるのはどうだろう。」

Rさん「 $\boxed{A}$ に入る整数は3つの式にふくまれているから、和が15になる整数の組み合わせの数も、3通り必要になるね。」

Sさん「そうだね。 $\boxed{A}$ に最も大きな整数の9を入れて考えてみよう。9を使って和が15になる整数の組み合わせをすべてあげると、9と1と5、9と2と4だね。」

Rさん「 $\boxed{A}$ に入る整数は3つの式にふくまれているけれど、9を入れて和が15になる整数の組み合わせの数が2通りで、式の数より少ないから、 $\boxed{A}$ に9を入れることはできないね。」

Sさん「それでは、例えば、 $\boxed{A}$ に6を入れたらどうだろう。」

Rさん「 $\boxed{A}$ に9を入れたときと同じように考えると、 $\boxed{A}$ に6を入れて和を15にしたいから、6を使って和が15になる整数の組み合わせをすべてあげると、 $\boxed{\text{ア}}$ だね。」

Sさん「ということは、式の数と比べると、 $\boxed{A}$ に6を入れることができるね。」

Rさん「そうだね。同じように考えると、 $\boxed{E}$ に5を入れることができるね。」

先生「そうですね。他の枠も同じように考えると、入れることができる整数がわかりそうですね。」

(1) ア にあてはまる整数の組み合わせをすべて書きなさい。(3点)

(2) 下線部について、このように判断できる理由を、式の数や、整数の組み合わせの数を示しながら説明しなさい。(6点)

(3) 1を入れることができる枠を図の A ~ I の中からすべて選び、その記号を書きなさい。(4点)

4 図1のように、 $\angle ABC = 90^\circ$ の直角三角形ABCと、 $PQ = 4\text{ cm}$ の長方形PQRSが直線 $\ell$ 上に並んでいて、2つの頂点C、Qは重なっています。

図2のように、直角三角形ABCが直線 $\ell$ にそって矢印の向きに、毎秒1 cmの速さで移動します。 $x$ 秒後に、直角三角形ABCと、長方形PQRSが重なった部分の面積を $y\text{ cm}^2$ とします。点Cが点Rに重なるまで、直角三角形ABCが移動するとき、次の各問に答えなさい。(18点)

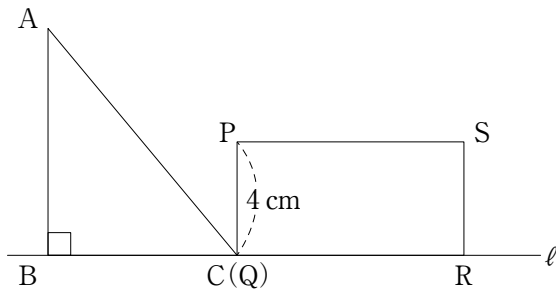


図1

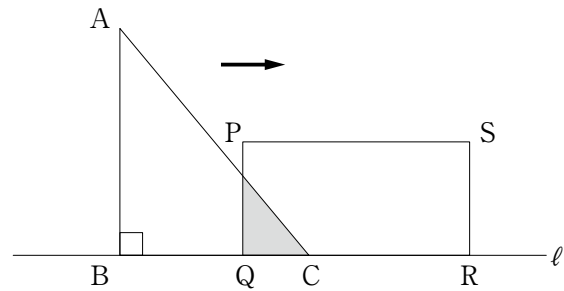


図2

(1)  $AB = BC = QR = 8\text{ cm}$ とすると、次の①、②に答えなさい。

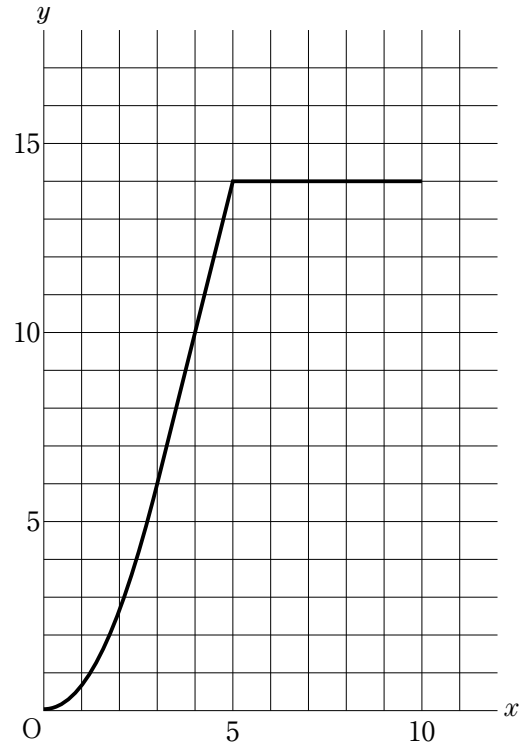
①  $x = 2$ のときの $y$ の値を求めなさい。(5点)

②  $4 \leq x \leq 8$ のとき、 $y$ を $x$ の式で表しなさい。(6点)



(2) 辺 AB, BC の長さを変えた直角三角形 ABC と、辺 QR の長さを変えた長方形 PQRS について、図2のように、直線  $\ell$  上を点 C が点 R に重なるまで、直角三角形 ABC が移動します。右のグラフは、 $x$  と  $y$  の関係を表したもので、 $0 \leq x \leq 3$  のときは放物線に、 $3 \leq x \leq 5$  のときは直線に、 $5 \leq x \leq 10$  のときは  $x$  軸に平行な直線になりました。

このとき、直角三角形 ABC の面積と、辺 QR の長さをそれぞれ求めなさい。(7点)



- 5 図1のような、1辺の長さが4 cmの立方体があります。  
辺AD, CDの中点をそれぞれP, Qとすると、次の  
各問に答えなさい。(12点)

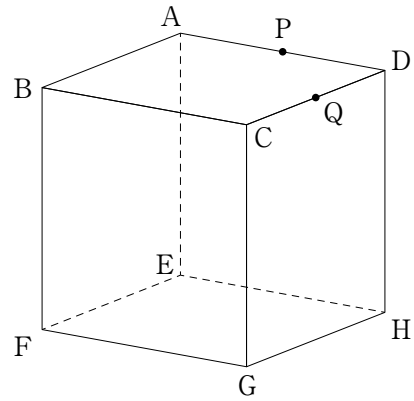


図1

- (1) 線分PQと対角線BDとの交点をR, 対角線EGと対角線FHの交点をIとしたとき,  
線分RIの長さを求めなさい。(6点)

- (2) 図2のように、立方体のすべての面に球が接しています。4点P, E, G, Qを通る平面で球を切るとき、球の切り口の面積を求めなさい。(6点)

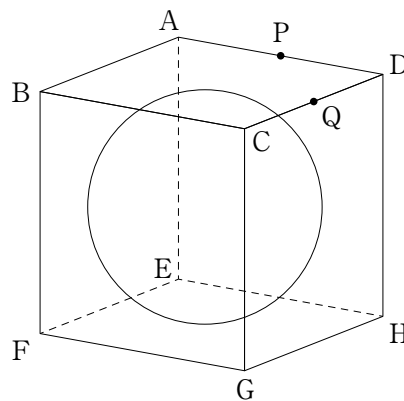


図2

(以上で問題は終わりです。)

1

(1) *	(2) *	(3) *
(4) *	(5) *	(6) *
	あと	回
(7) *	(8) *	(9) *
cm	$\leq a \leq$	$\text{cm}^3$
(10) *		
(説明)		

2

(1) \*

(2) \*

(証明)

1, 2の計

(切りはなしてはいけません。)

(ここには何も書いてはいけません。)

3

(1) *
(2) *
(説明)
(3) *

4

(1) ① *	(1) ② *
$y =$	$y =$
(2) *	
面積 $\text{cm}^2$	QR = $\text{cm}$

5

(1) *	(2) *
cm	$\text{cm}^2$

1, 2の計